



論文賞

主役はわたしたち

SI ウェストひろしま 推薦 山陽女学園高等部3年 河野 二葉

日本では1985年、女子差別撤廃条約が締結された。外務省のよると女子差別撤廃条約とは、男女の完全な平等の達成に貢献することを目的として、女子に対するあらゆる差別を撤廃することだとしている。ではこの条約が締結出来る前はどのような現状だったのだろうか。そしてこの条約がもたらしている効果はどのようなものだろうか。そのことを考えながら、私は今回二人の女性に話を聞いた。

祖母の姉は今年で88歳になる。彼女は戦後、教師として活躍していた。当時は男性が働き、女性は家庭の仕事をするというのが当たり前の世の中だった。そんな中働いていた彼女は仕事から帰り、炊事洗濯をこなし、お風呂をたいた後、さらに持ち帰った仕事をするという生活を送っていた。男は仕事、女は家庭という先入観のようなものにとらわれ生活していたため、苦ではなかったというが、今現在の生活に比べるとはるかに大変なことだっただろう。また当時は食糧難で、子どもたちのことを考えると、そんなことを気にしてはいられなかったという。しかし彼女に、もし今を生きる女性であったらどうしていたかと尋ねると、もっと自分の事を考え好きなことができていただろうと表情を変えて言った。

彼女の過去を詳しく知らなかった私は、今回このように話を聞くことによって彼女の強さや素晴らしさを再確認したと同時に、当時彼女の置かれた環境が今と全く違うことに驚き、考えさせられた。

私は今年の2月、ユネスコの本部であるパリで行われた「国際水協力年キックオフユース会議」に日本代表の一員として参加し、世界中から集まった多くの若者たちと水をテーマに討論し、宣言文をまとめた。このプログラムの提案者であり代表者であった懸田こころさんはまさに夢を叶えた女性の一人である。懸田さんは女性として働く上で支障を感じたことはなく、女性は家族、コミュニティ、地域の枠から、広いグローバルな視点を持たなければならないと考えられている。また、国連が掲げるジェンダーバランス化が進む中で、男性とも切磋琢磨して、より良い社会と世界の実現のために独自の能力を生かし、常に後世の事を思い行動すべきだと語っている。

祖母の姉の時代があって、懸田さんが活躍できる今という時代があるのだと思う。今、社会で活躍する素晴らしい女性が増えているのも女性差別撤廃条約が締結されたおかげだ。現に働く女性は増え、それと共に自立した女性も増えてきた。夢を実現するためには、どんな苦悩があろうとも実現させるという「情熱」と、夢を実現に導いてくれる多くの方々への「感謝」の気持ちが必要である。それがあれば男性であろうと女性であろうと夢を実現できるのだ。これからはわたしたち女性ももっともっと活躍する番である。平和を愛し、隣人を愛する女性ならではの視点からみた社会や世界はこれからもっとより良いものになるに違いない。クラーク博士の“Boys be ambitious.”という言葉に並ぶ“Girls be ambitious.”という言葉を残す有名な女性が出てくる日も近い。いや、“Boys and girls be ambitious.”だ。そんな社会に貢献できる一人として私はこれから精一杯生きていきたいと思う。これからの主役は私たちだ！